

2011年 京都教区平和旬間メッセージ

平和のために、原子力利用を問う

京都司教 パウロ大塚喜直

今年の平和のための祈りは、3.11の東日本大震災で被災された人々と連帯して捧げましょう。未曾有の大災害で、余りにも多くの尊い命が失われました。あわれみの神が、家も家族も生活のすべてを失った被災者の悲しみをいやし、生きる力と勇気をお与えくださいますように、私たちは祈り続けなければなりません。



ベネディクト16世教皇の2010年の平和メッセージを受けて、私たちは平和の構築と環境保護に密接な関係があることを学びましたが、「福島第1原発事故」で、いっそうこのことを真剣に考えなければならなくなりました。地震と津波は天災ですが、原発事故は人災です。科学・技術は神が人類に与えた創造性の産物であっても、原子力の開発が生み出した諸問題の解決策は人類の心の中にあります。これほど、人間と環境に脅威を与える原子力というものは、果たして人間に手に許された科学・技術であるかどうか、識別する必要があります。

世界で唯一の被爆国である日本は、今、「原発の被害国」になる危機に立っています。核兵器廃絶と戦争のない世界をめざす平和運動も、その原点に立ち戻って、「誰もが、人間らしく、安全に安心して生きることのできる世界」を目指していることを喚起したいと思います。現代社会の消費・生産モデルは、経済的・環境的観点から見ても、多くの場合持続不可能です。国際社会は軍備撤廃を進め、核兵器のない世界を実現する努力と共に、核エネルギーの利用について人間の限界をわきまえ、環境に負荷を与えないエネルギーの研究と活用を推進すべきです。



節電に努力するこの夏ですが、私たちはあらためて、安心と安全のために質素な生活様式を選び、そのための犠牲も平和のためと思い、日本中、いや人類全体が平和のためのあらゆる活動で連帯することができるように祈りましょう。



平和を願う祈り

神よ、わたしを、あなたの平和の使いにしてください。
憎しみあるところに、愛を
いさかいあるところに、ゆるしを
分裂のあるところに、一致を
疑いのあるところに、信仰を
誤りのあるところに、真理を
絶望のあるところに、希望を
悲しみのあるところに、喜びを
闇のあるところに光をもたらすことができますように
助け、導いてください。

神よ、わたしに
慰められることよりも、慰めることを
理解されることよりも理解することを
愛されることよりも、愛することを望ませてください。
わたしたちは、与えるから受け
ゆるすから、ゆるされ
自分を捨てて死に、永遠の命をいただくのですから。

